

個々への関わりが生徒の活動に与える影響

ー高等学校 芸術科（美術・工芸）での実践よりー

学籍番号 209355

氏名 土居 史佳

主指導教員 谷村 さくら

1 はじめに

高等学校芸術科は義務教育とは異なり、選択科目となっている学校が多い。自身で科目を選択できるために、授業に対して好意的な感情や意欲を持って取り組んでいる生徒が多いことがアンケート調査で分かった。しかし、基本学校実習の中で芸術科（美術・工芸）を選択する生徒の中に、美術・工芸が決して嫌いなわけではないが、授業に対する意欲が低く、苦手意識を持っている生徒たちがいるという課題があった。

複数の先行研究によると生徒の学習活動に与える影響は評価、自己肯定感、環境、内発的動機づけなど様々にある。これらの影響は高等学校の美術科や工芸科の活動でも同様の影響があるのではないかと考えた。そこで、生徒の学習活動に与える要因を周囲からの個別の関わり方に注目して研究を行った。関わり方についての研究は多くあるが、高等学校の美術・工芸での言葉がけの実践研究はあまり多くはない。生徒自身で履修する科目が選択可能な高等学校において、本研究では個々の関わり方の中でも、主に言葉がけに焦点を絞って研究を行う事にした。

2 言葉がけの種類による生徒の活動の変化

生徒の制作活動及び作品に対して個別的に周囲の大人が言葉で何かを伝えたときに活動及び作品が変化するという実態から、周囲の大人からの言葉がけを大きく4つに分類し、活動に大きく変化があった生徒を対象に観察する。

- ①肯定的、ポジティブな言葉
- ②否定的、ネガティブな言葉
- ③指示や説明のような方向付けを促す言葉
- ④生徒の制作及び制作活動への質問、疑問

以上の4つに分類してその活動及び作品の変化を観察していく。

①、②、③、④の大人からの異なる言葉がけによって、それぞれの言葉が生徒の制作活動及び作品に与える周囲の大人の影響について事例をもとに考察した。

3 生徒のつまづきに対する関わり

生徒がつまづきや苦手意識を感じる瞬間は「構想時」と、「自身の納得いく作品がつくれていないとき」が多いことがアンケート調査から判明した。また、澤田（2016）の研究でも児童が表現への苦手意識の主な要因として「思い通りの絵がかけない」「アイデアが浮かばない」

というアンケート結果がある。本研究では、この2場面が見られた事例を2つ取り上げてつまずきや困難を感じている生徒へ言葉がけを主とした関わりがどのような影響を与えるか考察した。降籟(2016)は友人や教員を含めた他者からの言動が苦手意識の要因となるケースもあるとしている。このことから、言葉がけによって意欲を高める効果がある一方でつまずきや苦手意識を抱くケースもあることが明らかになった。また、つまずきを感じた時に生徒は最も教員からのサポートや助言を求めていることが調査から明らかになった。

4 人間関係が言葉がけに及ぼす影響

言葉がけを行う人間と生徒の関係性に焦点を当て、それらがどのように関連していくか考察した。作品に対して満足度が高いときに①の肯定的、ポジティブな言葉がけを受けたときは、多くの生徒が嬉しいと感じ、意欲が向上することが分かった。また、制作活動の中で大人からの肯定的な言葉やポジティブな言葉がけは美術や工芸の活動に対しての意欲が上がるのが分かった。②の否定やネガティブな言葉がけは、生徒の表現意欲を減退させ、美術あるいは工芸の授業嫌いの生徒を生み出してしまう恐れがある。しかし一方で、生徒自身の中で自身の作品に対して疑問を持ち、客観的にみるきっかけとなる効果もあることが明らかになった。③「こうしてみたら」など指示や説明のような方向付けを促す言葉には授業のねらいへ学習活動を方向付ける効果がある一方で、適切に言葉がけが成されなければ大人が生徒の発想力や構想力や生徒自身のやりたいことを制限してしまう場合もある。そのため、③の言葉がけは本来生徒が持っている意欲を奪ってしまう危険性があることを十分理解して関わっていく必要がある。また、大人から生徒に質問を投げかけることで、会話の中から生徒自身が頭の中の活動を振り返ることができ、生徒自身も現在自分が目指している目標についてメタ認知が育成できる場合もある。また、生徒のアンケート調査と聞き取り調査から、親しい友人や教員から質問を受けることに対して「うれしい」と感じると回答した生徒が4分の1いたことや質問を通して生徒の意図や作品制作に込めた思いを知ることができることから、質問などを通して生徒に関わることは重要だと考えられる。

5 おわりに

本研究では個別の指導、主に言葉がけが生徒に与える影響について述べた。芸術科(美術・工芸)において個別の指導をする機会はこの教科より多い。その指導の際の関わり方が生徒に与える影響は様々であった。最もよく行う言葉がけにも多くの効果が考察された。また、言葉掛けにも、どんな言葉をかけるか、かける場面や状況、誰がかかるかによって生徒に与える影響が異なることが明らかになった。それらの要素が複雑に絡み合っただけでなく生徒に影響を与えるのである。

生徒への関わり方に最適解はない。しかし、言葉がけ1つで生徒の作品や活動に対する意欲が大きく変化したことから、美術や工芸の活動で言葉がけの重要性は高いと考えられる。